

CASBEE® 名古屋

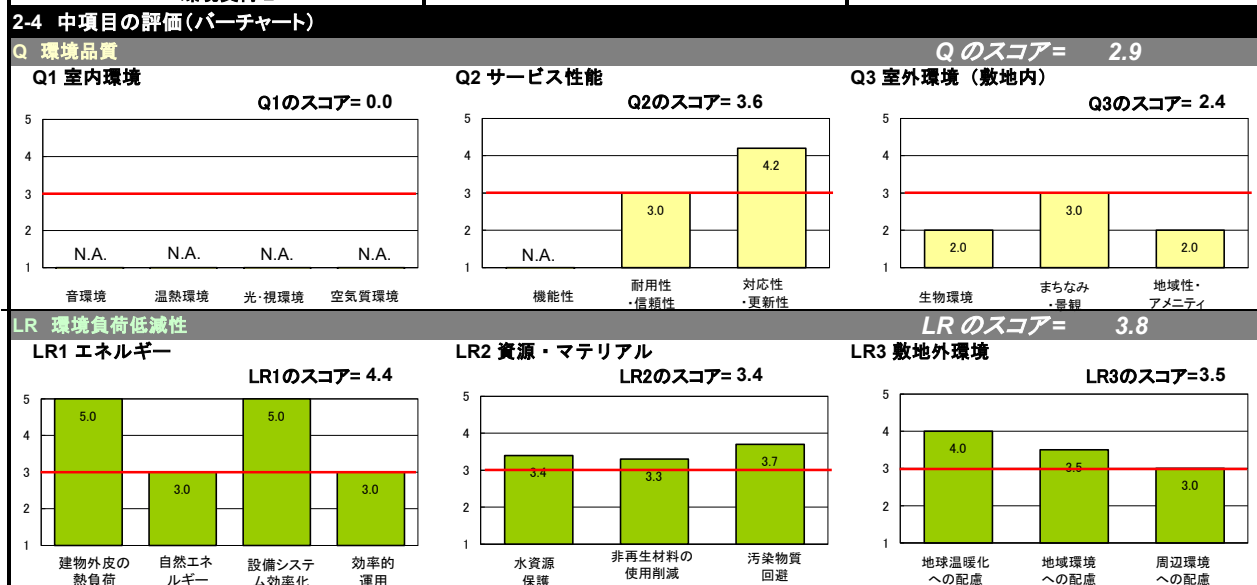
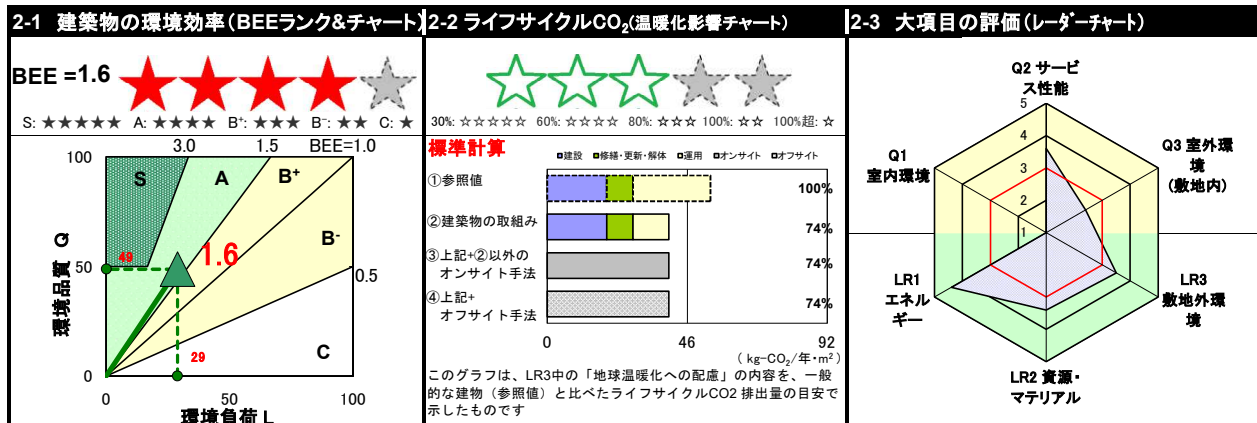
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改訂) 名古屋環境研究所環境政策研究部環境政策研究課 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイキョーオータ(株)高層物流センター	階数	地上4F
建設地	愛知県名古屋市中川区上高畑1丁目53,180	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年4月 予定	評価の実施日	2026年8月10日
敷地面積	1,357 m ²	作成者	
建築面積	717 m ²	確認日	2026年8月10日
延床面積	2,651 m ²	確認者	

外観/パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		その他
総合 倉庫用途よりシンプルに計画		特になし
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 倉庫用途なので空間の自由さを考慮	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー 省エネ適合判定提出	LR2 資源・マテリアル 節水型衛生設備器具の選定	LR3 敷地外環境 敷地内に十分な駐車場を確保することで交通渋滞考慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ダイキョーオータ(株)高畑物流センター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			4.2
LR1 エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生			1.9
Q3.1 生物環境の保全と創出	2.0	0.171428571	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	無	0.017142857	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	0.085714286	
3. 循環型社会			3.3
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。